

たまな農地利用最適化推進運動

農委会名：玉名市農業委員会

1 地域の概要

本市は熊本県北西部に位置し、南北の距離は約17Km、東西は約14.5Km、市域の面積は152km²である。

有明海、菊池川、小岱山及び金峰山系の山々などの豊かな自然や数多くの歴史的資源に恵まれており、産業面では米をはじめとする野菜、果物などの農産物や海苔・アサリなどの水産物の生産が盛んである。

農業構造については、近隣の市町へ通勤が利便化して兼業が進み、恒常的勤務による安定兼業農家が増加したが、最近一層の兼業の深化によって土地利用型農業を中心とした農業の担い手不足が深刻化し、また施設型農業については、規模拡大が進んでいる。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 19人（うち認定12人、女性2人）
- (2) 推進委員数 19人（うち認定9人）
- (3) 事務局体制 13人（うち専任10人、会計年度任用職員3人）

3 掲げた目標

- (1) 遊休農地の解消面積 3.0ha
- (2) 地域計画づくりへの積極的関与

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

(1) 遊休農地の解消

昨年は、農業委員・農地利用最適化推進委員・事務局職員で地域ごとに分かれ、連携を図りながら遊休農地の判断を行った。

1号遊休農地と判断した農地は利用意向調査を行い、貸付希望の農地は中間管理機構へ貸付けを行っていく。

非農地化については現地を確認し、所有者の状況や意向を確認したうえで非農地化しても支障がでないよう留意して実施した。



農地利用状況調査



非農地判断

(2) 地域計画づくりへの積極的関与

地域計画の策定に向けた協議・話し合いを令和6年10月から11月にかけて13地区を5会場にて開催し、農業委員・農地利用最適化推進委員が各々の地区に参加した。

今回は、令和5年度の地域計画座談会で作図した地域の担い手農家が10年後に引き受ける予定の農地（計画地図）を確認しながら、各地域の現状や課題及び将来の農業の在り方について活発な意見交換を行った。



地域計画の協議・座談会

5 取り組みの成果

(1) 遊休農地の解消

農業委員と農地利用最適化推進委員が連携・協力し、農地の利用状況や担い手の状況など各委員が情報共有を行い、現地確認を行った。

農地の利用状況調査後、1号遊休農地の所有者に利用意向調査を実施し、貸付けを希望する意向があった農地は中間管理機構へ貸付けを行う。

1号遊休農地の70筆(72, 825㎡)に利用意向調査を行い、51筆(51, 440㎡)の回答があり、うち17筆(13, 462㎡)が農地中間管理機構の制度を利用したいとの意向であった。

再生利用が困難な農地の104筆(84, 168㎡)のうち39筆(28, 252㎡)に非農地通知を発送した。

(2) 地域計画づくりへの積極的関与

地域計画の策定に向けた協議・話し合いを行った結果、市内13地区の目標地図の素案を完成することが出来た。

6 課題と今後の方針等

現状としては、農業者の高齢化や担い手不足による荒廃農地が増加している。

今後は、再生が見込まれない農地については非農地化等、新たな土地の活用方法を検討していく必要がある。

また、今年度は新たに地域計画が策定され、集積・集約する農地が可視化されたため、農業委員と農地利用最適化推進委員と地元の意向に耳を傾けながら農地の有効利用活動を展開していきたい。